

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

音に関する探究活動

〈テーマの設定理由〉

本園の幼児クラスは、3歳児5名、4歳児7名、5歳児4名の合同保育で活動を行っている。世田谷区上町にある小規模園で、近くには公園や神社などが多く、とてもよい環境の中に位置している。

素直で元気のよい子どもたちが多く、日頃の保育の中でも、子ども達同士が仲良く関わり合いながら生活する様子がみられ、歌を歌ったりダンスを踊ったり、楽器遊びをしたりすることに関心が高い。

そんな中、楽器遊びの活動をしている際に、子ども達から、音について調べてみたいという声が聞かれたので、今年度の活動に関するテーマを『音に関する探究活動』に設定した。

2. 活動スケジュール

- ① 6月～3月にかけて、音探しの散歩、おとのたんけんマップ作り
- ② 10月 太鼓見学、体験(4、5歳児のみ)
- ③ 11月 畑にて音探し活動(3、4、5歳児)
- ④ 1月 チャーリーさんのワークショップ(2、3、4、5歳児)
- ⑤ 1月と2月 楽器作り、楽器演奏(3、4、5歳児)
- ⑥ 3月 手話や聴診器について(3、4、5歳児)
- ⑦ 3月 活動のまとめ

3. 探求活動の実践

〈活動の内容〉

- ① おとのたんけんマップ作り

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

おとのたんけんマップを作成し、子ども達が身近な音を探しながら探究活動を探し、それをビジョン化することができるようにした。

園から半径 1.5 kmをめやすにして散歩を行い、近所の公園、小学校、図書館、神社などの施設を地図にして表した。写真なども合わせて貼り、子ども達が見つけた音をイメージすることができるように工夫した。

【活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり】

○ふみきりの音

(子どもの発言)「電車の音見つけた!!」「カンカンカンっていってる。」「どうしてこんなに大きな音になるのかな。」

(保育者の発言)「小さな音だとどうなるの。」

(子どもの発言)「困る。」

(保育者の発言)「なんで?」

(子どもの発言)「危ないから。」「そうだ!(大きな音がするのは)危なくないように教えてるんじゃない。」

○マンホール

(子どもの発言)「中からなにか音がする。」

(保育者)「なんの音かな」

(子どもの発言)「ちよろちよろしてる。」「水の音！」

(保育者)「どこから水が流れているんだろうね。」

(子どもの発言)「家から！」「家と川が繋がってる。」

(保育者)「なんでつながってるの？」

(子どもの発言)「汚い水を捨てるから！」「下水道だよ！」「海まで流れていくんだよ！」

○図書館の貸し出し機械

(子どもの発言)「ピッという音がしたよ。」

(保育者)「なんでピッという音がするの。」

(子どもの発言)「終わりましたよって分かるから！」

○季節の音、自然の音

・チョウ

(子どもの発言)「あっちようちよがいたよ。」「羽の音がする。」

・棒

(子どもの発言)「木の棒をたたいたら音がするよ。」

(保育者)「どんな音？」

(子どもの発言)「とんとんって。」

(保育者)「他には？」

(子どもの発言)「とんとんやパンパンもあるよ！」「大きいのと小さいので音が違うよ。」

・落ち葉

(子どもの発言)「葉っぱを投げたらカサカサ言ってる！」「たくさん集めると音が大きくなる。」「とんとん集めて大きな音をだそう！」

・霜柱

(子どもの発言)「あっ！氷がある！」「踏んだら音がなる。」「シャリシャリゆってる！」「よし、いっぱい踏んでシャリシャリ鳴らそう！」

・神社にて初詣

(子どもの発言)「お参りする時に、鈴が鳴ってる！」

(保育者)「なんで音がなるの？」

(子どもの発言)「神様にお知らせするため！」

(保育者)「太鼓の時と同じだね。」

② 太鼓見学、体験(4、5歳児のみ)

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

太鼓の講師招聘の活動。近くの児童館の防音室にて、様々な大きさの太鼓を準備していただき、演奏を見せて頂いた後、実際に子ども達も太鼓を演奏してみる活動を行った。

【活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり】

(子どもの発言)「とんとん大きな音がする。」「太鼓で音が違う。」「音がなっている時に地面がジンジンしてる。」「強くたたいたら大きな音がする。」「太鼓の横をたたいても音がする。」「太鼓の真ん中と横を叩いたら音が違う。」

・疑問や気づきなど

(子どもの発言)「どうして地面がジンジン揺れるんですか？」

(講師)「空気が揺れて地面にぶつかって音が鳴るんだよ。」

(子どもの発言)「どうして太鼓で音が違うんですか？」

(講師)「音の揺れ方が違って、音が違うんだよ。大きく揺れると高い音が鳴って、小さくと低い音が鳴るよ。」

(子どもの発言)「なんで太鼓を叩くんですか？」

(講師)「神様にお知らせするために太鼓を叩くんだよ。昔からお祭りなんかで大きな音を出して、神様にお願いごとをしていたんだよ。」

③ 栗山農園さんにて、畑の音探し活動(3、4、5歳児)

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

園から4kmほど離れた栗山農園さんに遠足に行き、畑の中を見学させていただき、畑の音探しを行った。フィールドビンゴの用紙を準備し、「風の音」「葉っぱの音」「虫の音や声」「鳥の音や声」「土の音」などを項目に分け、様々な音を探した。年長を中心にした4名ほどのグループで自由に畑の中を散策し、後日グループで見つけた音を話し合い、クラス内で発表を行った。また、子ども達一人一人に畑で見つけた音の絵を描いてもらい、自分たちが発見したものを共有しあった。

【活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり】

(子どもの発言)「石の音見つけた！」「叩いたらかちかちいうよ。」「石が割れる音もする！」「竹と石がぶつかったら面白い音がするよ。」

(子どもの発言)「畑の音は地面をふんだらするよ。」「柿をハサミで切った時に聞こえたよ。」

(子どもの発言)「鳥が鳴いている音がする。」

(保育者)「どんな音？」

(子どもの発言)「ピーピーとかぴちぴちとか、ぴびぴびって言ってるよ。」

(保育者)「どんな時に聞こえる？」

(子どもの発言)「跳んでいる時とか、止まっている時とか。」

(保育者)「なんで鳴いているのかな？」

(子どもの発言)「うーん。お話しているんじゃない？」

(子どもの発言)「スコップで土を掘ると、音がする！」

(保育者)「どんな音？」

(子どもの発言)「サクサクいってる。」

(保育者)「大きなスコップと、小さなスコップで音は変わるかな。」

(子どもの発言)「うん、大きなスコップの方が音が大きいよ。ザクザクいってる。」

(保育者)「掘る場所で音は変わるかな。」

(子どもの発言)「うん、石にあたると、カチってなるよ。」

(子どもの発言)「あっミミズがいたよ！」

(保育者)「何か音は聞こえた？」

(子どもの発言)「土を歩く音！」「にゆるにゆるゆってる。」

(保育者)「ほかには？」

(子どもの発言)「うーん、、、なんかガジガジ言ってる！」

(保育者)「なんのガジガジかな。」

(子どもの発言)「えーっと。何か食べてるんじゃない。」

(保育者)「何を食べてるのかな。」

(子どもの発言)「泥を食べているんじゃない！」

④ チャーリーさんのワークショップ(2、3、4、5歳児)

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

科学実験のでんじろう先生のチームのチャーリーさんに外部講師に来て頂き、保育園で科学実験をやって頂いた。

【活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり】

(子どもの発言)

空気鉄砲をみて

「すごい空気の輪っかだ！」「くるくる回ってる！」「こんなに遠くまでとんできた！」

(子どもの発言)「なんで音が聞こえるんですか？」

(チャーリーさん)「空気がゆれて音が鳴るんだよ。たくさんゆれると高い音が、ゆっくりゆれると低い音が出るよ。」

空気砲づくりの工作

(子どもの発言)「すごい！風がくるよ！」「どんって言ってる。」「風で宇宙人をたおすよ！」

⑤ 楽器作り、楽器演奏(3、4、5歳児)

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

身近にある素材を使って、手作りの楽器づくりを行った。ペットボトルの中に様々な大きさのビーズを入れて、音の違いを調べた。ミルクの空き缶を使って、太鼓づくりを行った。段ボールや段ボールの筒を使ってスティックやメガホンを作った。

【活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり】

(子どもの発言)「先生、ビーズがペットボトルに入ったよ。」

(保育者)「そうだね。いろいろな大きさのビーズを入れてみて。」

(子どもの発言)「うん。分かった。」

(保育者)「上手だね。大きさが違うと、音は変わったかな。」

(子どもの発言)「うん。」

(保育者)「どんな音？」

(子どもの発言)「大きな方はガシャガシャいっていて、小さい方はシャカシャカいってる。」

(子どもの発言)「段ボールがまるくできたよ！」

(保育者)「上手だね。ミルクの缶を叩いてみて。」

(子どもの発言)「うん。」「大きな音が出た！」

(保育者)「いろんな場所をたたいてみて。」

(子どもの発言)「あっ！音が違うよ。」「横と上の方じゃ音が違って聞こえる。」

(子どもの発言)丸めた段ボールを口にあてて、「あ————！！」

(保育者)「すごい作ったね。」

(子どもの発言)「お——い、せんせ——い！！」

(保育者)「すごい。段ボールの先の方がゆれてるよ。」

(子どもの発言)「ほんとだ！もう一回やってみる！」

※実際に鉄琴やピアノ、打楽器などの楽器を使って合奏や演奏も行ったが、音の違いや音が合わさる楽しさを感じたようだった。

⑥ 手話や聴診器について

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

救急車やふみきりの音を見つけた時に、なんで大きな音がなるのかなという疑問があった。そこから、耳が聞こえない人のための支援があること。手話という手段を使って、意思疎通を図ることができることを学んだ。

また、聴診器を使ってお互いの心音を聞くことで、自分たちの体の仕組みなどを学んだ。

【活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり】

○手話について

(子どもの発言)「救急車の音がしたよ!」「なんであんなに大きな音が鳴るのかな?」

(保育者)「なんでだと思う?」

(子どもの発言)「うーん、、、教えているんじゃない?」

(保育者)「なにを」

(子どもの発言)「危ないよって。」「他の車や歩いている人に、どいてくださいって言うてる。」

(保育者)「そうだね。目の見えない人がいても分かりやすいね。」

(子どもの発言)「ふみきりも同じだね。」

(保育者)「反対に耳が聞こえない人はどうしたらいいの?音が聞こえないと、困るよね。」

(子どもの発言)「あっ分かった。光があるよ。赤い光がピカピカしてる!」

(保育者)「そうだね。他に耳が聞こえない人にお話しをする方法があるんだけど、何か知ってる?」

(子どもの発言)「とんとんって叩いたらいいよ!」

(保育者)「そうだね。他にも手話っていうものを使って、合図をしてお話できるんだよ。」

手話について学ぶ

○聴診器

(保育者)「これなにか知ってる?」

(子どもの発言)「聴診器!」「お医者さんが、もしもしてするやつ!」

(保育者)「そうだね。じゃあ順番にお腹や胸の音を聞いてみよう。」

順番に聞いたあと

(子どもの発言)「どくどくいってる。」

(保育者)「なんでどくどくいってるのかな。」

(子どもの発言)「空気が動いているから!」「お腹がないているよ。」「とんとん言って生きているよ。」

4. 振り返り

〈振り返りによって得られた保育者の気づき〉

・今回すくわくプログラムを進めてみて、普段から子ども達の気づきや発見に目を向ける機会が増え、日常の保育にも広がりが出てきた。また、様々な場所に出かけたり、講師招聘の活動を行うことにより、子ども達の意欲や関心が高まり、生き生きとした活動を行うことができた。その様子は家庭でも見られたようで、連絡ノートなどを通して、子ども達の姿を知ることができた。

・様々な楽器を購入していただき、いろいろな音探しを行いながら、合奏なども行い、お互いの音が合わさる心地よさを経験することができた。次年度からも楽器の演奏や合奏を行い、保育に活用していきたいと思う。

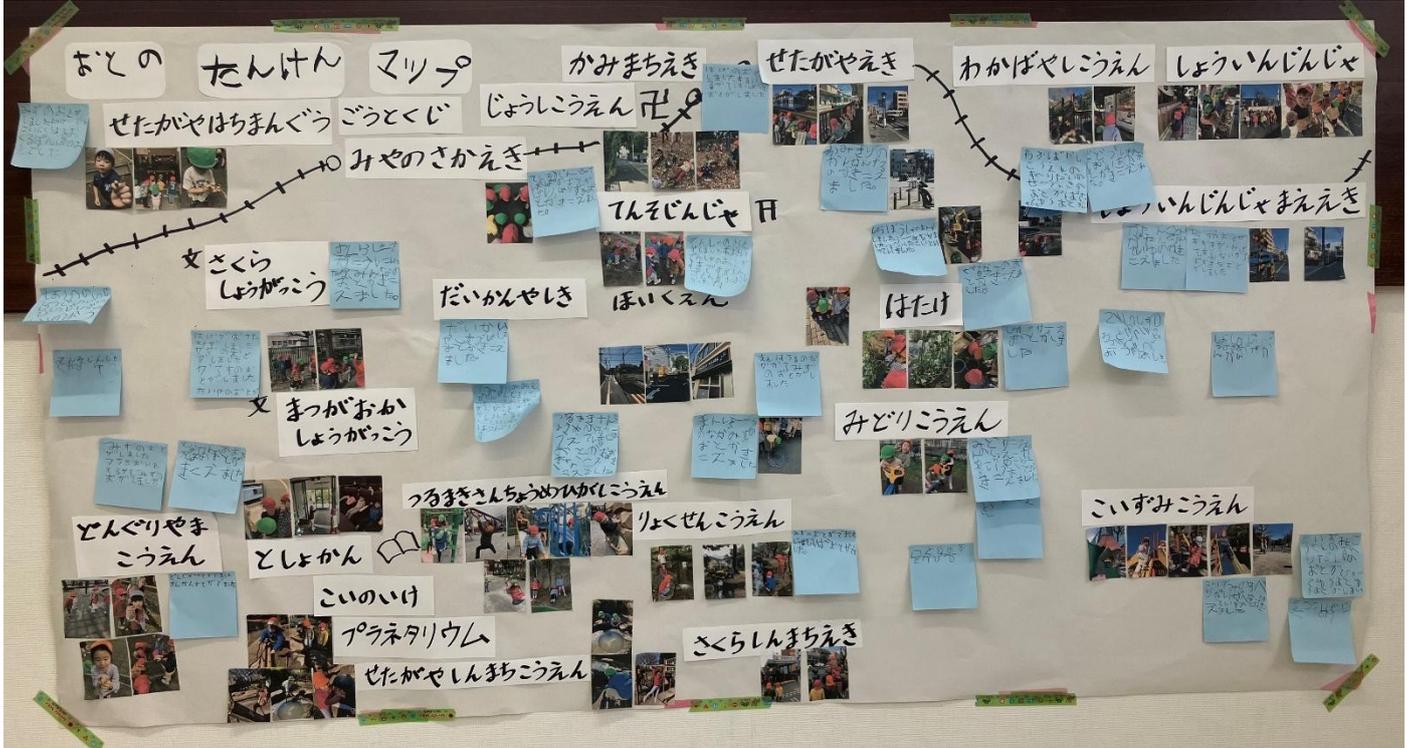
・1単元の活動で終わるのではなく、複数の活動を行い、音に関する探究活動を行うことができた。しかし、ほぼ一人の担任保育者ですくわくプログラムを進めてしまい、活動の深まりが少なくなってしまった。今後はほかの保育者にアドバイスをもらったり、一緒にすくわくプログラムを進めたりしながら、活動の深まりを目指していきたい。

・子ども達の気づきや発言に対しての保育者の返答や反応が不十分だった。子ども達はよい気づきをしていたので、

その気づきが深まっていくように、今後も返答や反応のしかたを工夫していきたい。

・活動を計画的に行うことができていなかった。夏頃からすくわくプログラムを進めることが決まり準備をしたが、子ども達の思考の流れが繋がっておらず、活動と活動の深まりが少なかった。音というテーマをもとに行ったので、最終的にそれぞれ学んだことが繋がるようにするべきだった。次年度も行うことになれば、年間を通した活動を計画して、子ども達の考えがより深まるようにしたい。

○おとのたんけんマップ



○手話や聴診器



〇おとのたんけんマップ(音探しの散歩の様子)



○太鼓体験



○畑の音探し活動



○チャーリーさんのワークショップ



○楽器づくり



○楽器演奏、合奏

